

安井 英章

改革ネットワーク(青の会、市民の声、シリウス、大河の会、日本共産党)

陸上風力発電は規制すべきでは

【問】 小型風力発電はガイドラインがあり規制できているが、中型以上については規制がない。中型の風車は回転も速く騒音の問題や景観上の問題も発生する。条例やガイドラインで規制すべきでは。

【答】 風力発電事業計画の認定は関係法令等で規定されているほか、適切な事業実施のため、国のガイドラインも示されている。また、市独自のガイドラインに基づき、周辺環境への配慮等、各事業者等に指導している。今後、本市における陸上風力発電の運用状況等を注視しながら、条例やガイドラインの見直し等による規制の必要性について検討していきたい。

市独自のPCR検査費用の補助を

【問】 人が動かなければ経済も動かない。ワクチンが開発されるまでは、まだ時間がかかる。民間の企業や自治体では独自の検査や補助を始めている。能代市でもPCR検査費用に補助はできないか。

【答】 新型コロナウイルス感染症の検査は、基本的に秋田県知事及び秋田市長が行うことになっている。現在、能代山本地区で検体採取できる医療機関は2か所のみである。また、検査を依頼する機関の処理可能件数は1日最大90件であり、市独自の検査費用の補助には至らない現状にある。今後、状況に応じ、市としてできることを検討していきたい。

その他の質問事項

- 文書等に元号と西暦を併記すべきでは
- 災害時避難所の小・中学校へエアコン設置を
- 水素による大規模発電を市のムーブメントに

落合 康友

改革ネットワーク(青の会、市民の声、シリウス、大河の会、日本共産党)

教職員の多忙化防止

【問】 教員多忙化の最大の要因は繁忙な学校業務。特に学習指導要領改訂によってさらに増えているため、これまでの慣例的業務を改善するしかない。学校業務の抜本的な見直しと大幅な削減は進んでいるか。

【答】 昨年3月に文部科学省より、学校が担う業務について具体的な仕分の観点が表示され、市教育委員会では、これを基に具体的な取組を進めているが、実現には時間がかかるものもあり、大幅な削減が進んでいると言える状況ではない。今年度から導入しているコミュニティ・スクール制度が充実していけば、多忙化防止に大きく寄与していくと考えている。

旧宗徳小学校等の空き校舎利活用

【問】 当協議は地域住民の意見だけを集約し小さい枠組みの中で進められている。空き校舎が最大限に有効活用され全体的な振興に貢献するには、地域外住民の意見も取り入れ産学官の連携を重視して進めるべきでは。

【答】 小規模校統合後の空き校舎の利活用については、地域住民との意見交換を実施し検討を進めてきたことから、現段階において、利活用そのものに対する地域外からの意見を取り入れることは考えていないが、今後、検討を深めていく中で、必要に応じて、専門家等からアドバイスを頂くことや民間団体等との連携も視野に入れていきたい。

その他の質問事項

- 公共施設へのWiFi設置の拡充
- 新型コロナウイルスへの抵抗から共生へ

安岡 明雄

改革ネットワーク(青の会、市民の声、シリウス、大河の会、日本共産党)

ICT活用で教育の可能性をどう広げるか

【問】 どういう授業をやっていくかを明確にするには、ICT活用の教育推進プランを策定し、先生、児童生徒、保護者が目的を共有して進めるのが重要だ。タブレット端末の活用で、どう進めていくか。

【答】 1人1台のタブレット配付により、今後はICT機器の活用主体が、教師から児童生徒へと移行し、より質の高い授業を目指すことができる。児童生徒が話し合いの中で、自分の考えを発信し、友達と共有し、自分の考えを再構築できるようなツールとして、児童生徒と教師、児童生徒同士といった双方向のやり取りが生まれるような使い方を考えている。

ICT活用を支えるサポート体制

【問】 先生が教える授業から、子供たちが主体的に学ぶ授業へ。これまでの授業を変えるのは大変なこと。そのために指導主事、ICT支援員がチームとなって研修をすることが必須となるが、どう進めるか。

【答】 機器操作のサポート、授業における有効な活用方法等についての助言、通信やシステム改善に係る各支援員の配置を考えている。また、全教員を対象とした研修会を、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、学校ごとに開催するなどしながら実施することを考えているほか、県教育委員会が主催するICT関連の講座への参加も呼びかけていく。

その他の質問事項

- 新型コロナウイルス時代にどう適応するか
- 大規模な豪雨災害時の避難所のコロナ対策は
- 浸水想定地域の避難体制は万全か